


# 部活動の立ち上げと 初期指導

津幡町立津幡南中学校ボート部  
加藤 丈司



## 津幡町って？どんなところで漕いでるの？





## みどりとボートの町つばた？





## なぜボートの町か？

- 金沢大学の合宿所がある
- 県内唯一のボートコース  
(小松市、七尾市にはない)
- 平成3年石川国体のボート競技会場として整備
- 国体の強化事業として津幡高校へのボート部創部
- ポスト国体としてボートコースを利用した  
**町民レガッタ**の開催




## 国体のときなぜ部ができなかったの？

作ろう	いらない
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 競技場がある</li> <li>• 艇など道具がある</li> <li>• 資金面の心配もない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• そもそもボートってなに？</li> <li>• 中学にいるの？</li> <li>• 誰が教えるの？</li> <li>• 部が増えたら・・・</li> <li>• 危ないのでは？</li> </ul>



## 創部への必要条件？

練習場所	道具	資金
指導者	周囲の 理解	必要感



### 石川国体のときは...

練習場所	道具	資金
指導者	周囲の理解	必要感

7

### 絶好の創部のチャンス を逸した石川県

## なぜ いま 創部できたのか？

8

### 県協会の視点から

- 勝てない石川県勢、唯一勝っているのは...中学生でも高校では勝てない  
(高校でボートができない選手が多い)
- 中学⇒高校とうまく連携できた選手の活躍  
丸内中⇒小松名峰  
H20 吉原 全日本Jr・インターハイ 優勝  
H22 長田 選抜・全日本Jr  
・インターハイ・国体 優勝

県協会の必要感

中学 → 高校 → 一般

一環指導の有効性を確認

9

### 津幡町の視点から

- 高校の県内大会を開催しても...勝つのは小松勢  
なぜ津幡は勝てないのか？
- 全国市町村交流レガッタやボートサミットで他の自治体からの刺激 (他の自治体には若者の活気がある)  
競技場が活用されていないのでは？

町協会の必要感

行政・立法の必要感

10

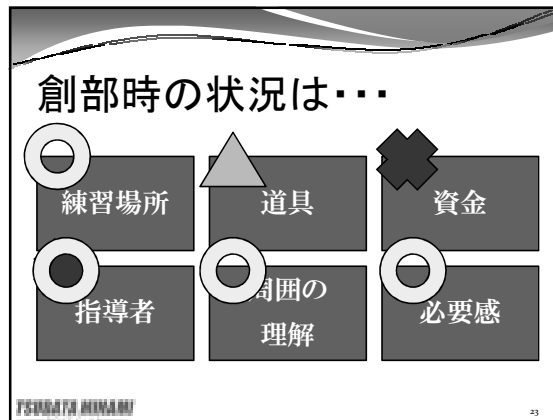
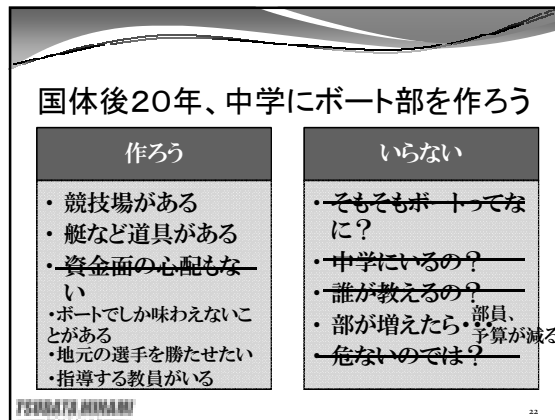
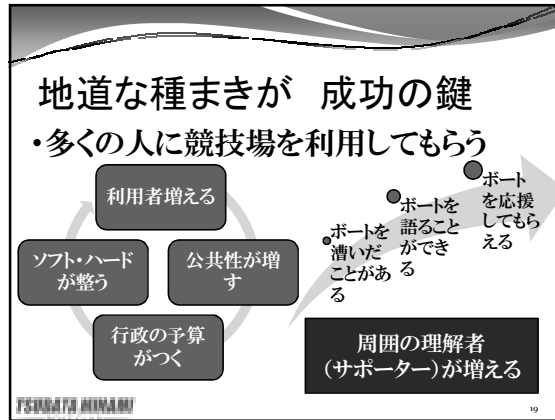
### 地道な種まきが 成功の鍵

- つばた町民レガッタ (毎年8月)  
ポスト国体の事業が成功した  
・年齢別、地区別、議会議員の部、中学生の部、小学生の部、(Jrスポーツクラブの部)
- 親子ふれあいボート教室 (毎年7~8月 5回程度)
- 小学校 夏休みの体験教室 (4年生全員)
- 中学校 校外学習活動 (2年生全員)
- 工業高専 プロジェクト事業 (4年間継続、体育の授業)
- つばたボートクラブ (過去10年間で小中学生約10人)

11







20年かかって  
なぜ  
いま  
創部できたのか？

TSUNAGI HINAMI 24

### なぜ創部できたのか

- 競技志向に走らず、地道な普及活動ができたから
- ボートのサポーターが増えたから
- 「ボートって一人だけが頑張ってもだめなんだよね」などという会話が町民とできるから

+

- 生徒数を維持できていたから(ラストチャンス)
- 人事異動がたまたまうまくいったから

TSUNAMI HANAMI 25

### 津幡南中学校ボート部

- 2008年 赴任  
バスケットボール部顧問
- 2009年 ボート同好会発足 (1年14名、2年1名)  
全中 男子4×+ 予選突破  
新人 男子4×+ 5位 女子2× 4位
- 2010年 部に昇格 (1年20名、2年14名、3年1名)  
全中 男子4×+ 9位  
新人 男子4×+ 2位 男子2× 2位  
女子1× 2位

TSUNAMI HANAMI 26

### 部員はどうやって集めたの？

- 正直言って  
勝手に入ってきました

#### 入部の理由

- 小学校の時漕いでうまいと言われた
- お父さんが漕いでいる(町民レガッタ)
- 何でもいから運動部へ入れと言われた
- 他のスポーツではレギュラーになれない

TSUNAMI HANAMI 27

### 道具はどうしたの？

- 町が持っている艇は  
すべてナックルフォア、スweepオール  
当初はナックルフォアでの練習
- 高校の先生からシングルスカルを借用
- 漕艇場のクォドルプルを借用
- 地域の支援者からクォドルプルを寄付をうける
- 年度末に町が1× 11艇、2× 3艇 購入
- 保護者会で クォドルプル を購入

TSUNAMI HANAMI 28

### 運営費はどうしているの？

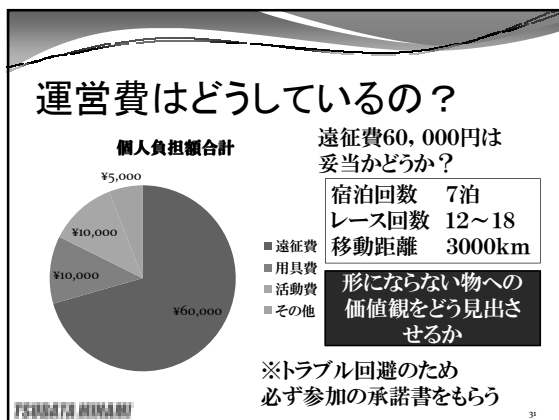
- 基本は受益者負担  
遠征費はかかった費用を参加者で折半  
シーズンはじめに出るレースを保護者会で決める
- ※朝日R、中日本R、静岡選手権、(全中)  
(全中新人)、神通、瀬田、MR北信越  
MR富山、MR福井、全中選抜

TSUNAMI HANAMI 29

### 運営費はどうしているの？

- 道具を維持するために  
イニシャルコストは行政が負担したが、ランニングコストは受益者が負担する。
- ⇒用具費 10,000円/人/年間  
※あまれば艇購入費用として積み立てる  
※積み立て金は3年以内(在籍中)に執行し、購入した艇は町に寄付する

TSUNAMI HANAMI 30



### 保護者の理解を得るために

- 保護者会を定期的に開く (3ヶ月に1回)
- 保護者をできるだけ巻き込む (応援、イベントなど)
- どんな選手も責任をもって成長させる (体が小さくても、運動が苦手でも、個々の目標をクリアできるようにサポートする)



### 初期指導 ~私が気をつけていること~

- 安全にボートができる状況を作ってあげること
- ボートを好きにすること
- ボートを続けたいと思わせること
- ボートを続けられる環境に導いてあげること
- 発達段階にあわせた適期をのがさないこと
- 自分で考えて正しい判断と行動ができるようにすること
- できるだけ選手に話をさせること
- 教育活動の一環でボートがあることを忘れないこと

### 安全な活動のために

- 大学の監督から届いた年賀状
- ライフジャケットがあれば安全なのか
- 安全教育の実施(ケーススタディ、ヒアリング)
- バディの実施

### ボートを好きにするためには

- つらい練習はボート嫌いを作るのか
- レースで勝った選手はボートが好きなのか
- われわれは何のために選手を指導しているのか

ボートを続けたいと思うには

- 中学で教えすぎることの弊害
- 他の選手との交流やライバルの存在
- 将来のビジョンを具体化できている
- 続けられる環境がある(部活がある、クラブがある、艇がある、シングルスカルに乗れる……)

37

発達段階をのがさない指導

- 神経系発達の最終期  
巧み性を高める  
SAQ? バランスボール?
- なかなか出来ていない ⇒ スカルでの乗艇
- 艇の挙動への反応を磨く
- ハンドリング グリップの握り方、左右のハイバックの意識

※できるだけ早い時期からスカルへ乗せる  
※スカルフロートの利用

38

発達段階をのがさない指導

- 逆になかなか身につかないこと  
筋力up  
特にコアまわりの緩さ  
スタビリティ? なかなか正しくトレーニングできない  
やっているようでも出来ていない?!

※ボートの動きに直結したメニューに特化した徹底指導  
※最大筋力をupさせるのではないから、自分の体を支える筋力ぐらいいは中学生でも身につけられるのでは?

39

自分で考え正しく判断

- 正直、30人以上の部員を教員1人で指導するのはなかなか難しい。
- 指導者を増やせばいいのか?
- 自分で考えられる部員を育てる。
- シミュレーションの徹底
- 生徒に情報を適正な時期に、適正な量を、意図的に与える
- 失敗もなぜそう行動したかを問う

40

できるだけ選手に話をさせる

- 今はやりの「言語力」ボートにも当然ながら有効なのは?
- 「問い直し」「言い換え」「要約」「解釈」など言葉にして表現させる。(トレーニング)
- 話すことで思考がまとめられ、深まる。そして、分かっていたことに気づく。(指導者も選手も)
- ついつい、一方的に指導者が話しすぎる
- 自ら考えられる選手の育成に大切なこと?!

41

おわりに

- 学校部活動でボートをやっている以上、「ボートで教育する」というスタンスを忘れないようにしている。
- 自分が今もおボートに関わって人生を送っている理由は「ボートとのいい出会い」があったから。すばらしい指導者、仲間と出会い、ボートを通じて貴重な経験が出来たから、そして今も出来ているから。
- 自分が経験した「ボートとのいい出会い」を目の前の選手にもさせてあげたい。自分のしてもらったことを次世代へつなぐ責任があるように思う。これからも、駅伝走者のように魂をこめてタスキをつないでいきたいと思う。

42